

後悔するその前に

灯明寺中学校

2年

城川 凜 しろがわ りん

「やばいやばい」

その一言が最後の言葉となった。

六月二十八日から七月八日頃にかけて、平

成最悪の西日本豪雨がおきた。たしかに雨は

ひどかったが、ここまでのひどくなるとは誰も

思わなかった。ただろう。さっきの言葉は、高校

生が自分の母親に電話したときの言葉だ。ま

さかこんは呆然としたことで、もう二度と会え

なくなるとなんて、思ってもおぼろげにただろう。

いつまでも続くと思っていたものは、一瞬の

出来事でもわけてしまふのだ。このような災

害がおこるたび、なにげにいいものの日常が

どれだけ幸せや大切だったかと思ひ知らされ

る。毎日のように流れる西日本豪雨にカチて

の非報。しかし、最近はいろいろな人が助け

合うニュースが流れている。例えば、高齢者

の家には高校生が行き、と砂のかき出しを行

う。

高齢者だけで何ができることが限りある。せん

ら行動するのほお光いのだ。  
 被害をなくす方法だと思ふ。災害がおきてか  
 人と協力する。これこそが最大の災害からの  
 救済だ。だから自分で自分の身を守り、地域の  
 助けを借りるかもしれない。だが今の世界には  
 毛しかすると、未来には災害を防止する発明  
 があるのだ。今の現地の人は、今の人たちには必要  
 はない。だが精神的にも。また、芸能人の布衣が  
 人を笑顔にするために現地にやってくる。そ  
 れが、今の人たちには必要はない。生活面でも  
 自分だけに。そして、また、遊ぼうと  
 約束したのに、その約束がはたされることは  
 ない。悟りてしまふ。他人。そんな人たちが  
 る。介らには助けはない。生活面でも

みなさん、土砂災害といったら何を思い浮かべるだろう。私は福井豪雨を思い浮かべる。福井豪雨は今回の西日本豪雨ほど被害は大きくないが、現地の人に大きく影響を与えた。そのとき私はまだ生まれていなかった。まだお腹の中だった。二ヶ月からのために体験したか、たまたま仔複雑仔保持者だ。私の父は鯖江にいらる親戚のとこに行きた。しかし、行く途中で水がたしで進むのが困難だった。たらしい。私にはあまり想像できないが、大塚だといのはすごいわかる。また、私の祖父母の家は足羽川のそばにある。そんな仔とくに足羽川が決壊した。幸い祖父母の家に影響はなかったが、その周辺は水であふれていたらしい。あと少し勢いが強かったらもしかすると私は祖父母の顔を見られずに育っていたかもしれない。その考えると体の奥のところが、かきこしと痛くなる。それと同時に、他人事ではないんだと思えてくる。

もしれない。それが一番怖い。そのとき役立  
 つのが地域での支えあい、助け合いへ共助し  
 だ。また、人が倒れていたときの救護訓練も  
 重要だ。私はこの前学校でAEDについて  
 説明を聞いた。実際の場面を想定して取り  
 扱った。二つゆうのを使ってだけか  
 人でも救えるといいなと思おう。  
 自然災害はおきるのは一瞬だ。しかし、あ  
 とから後悔するのは一生続く。そんな人た  
 ちをニュースで何人も見てきた。これ以上の

最近では災害が多い。だから早ままでいられ  
 るのも今のうちだ。戸が一自分の地域も災害  
 に巻き込まれたときに、パツと動ける人にな  
 りたい。そういう時のために防災訓練には積  
 極的に参加したほうがいいと思う。まずは自  
 分の地域の危険箇所の確認が必要だ。私の家  
 の近くには九頭竜川がある。もしもを考えて  
 行動したい。次に避難場所の確認、避難場所  
 までのルートの確認が必要だ。おそらく災害  
 がおきたらパニックになつて動けなくなるか

よいな人たちが増やしたくない。  
 だけれども、  
 う願っているはずだ。